

## 保育者養成校における表現教育の取り組み（3）

### An Approach to Expression Education in Early Childhood Teachers Training School (3)

多保田 治 江\*

#### 要旨

本学の「音楽表現Ⅰ」の授業で行っている小レポートは、「授業内容」「授業における学びについて」「事後学習について」「質問」（必要に応じて）の4項目を記述するものである。小レポートの分析を通して、授業時間とともに、授業のための事前学習や事後学習などの学生の主体的な学びに関わる内容について考察を行った。その結果、「事後学習の内容が明確になり、持っている力を高めようと心がけるようになった。」「授業をよく聴くようになった。」など、小レポートが授業に効果的に働いたことが明らかになった。

**キーワード：**主体的な学び(Active Learning)／音楽表現(Music Expression)／  
事前学習(Prior Learning)／事後学習(Post-learning)

#### I はじめに

平成27年4月から子ども・子育て支援新制度が開始された。この「新制度」実施に先立ち、幼保連携型認定こども園教育・保育要領<sup>1)</sup>が平成26年4月に公示された。領域「表現」の定義は、幼稚園教育要領<sup>2)</sup>、保育所保育指針<sup>3)</sup>、幼保連携型認定こども園教育・保育要領<sup>4)</sup>において共通している。

先行研究である「保育者養成校における表現教育の取り組み(2)」<sup>5)</sup>では、専門的な学びを始める前段階に学生が受けている音楽教育や音楽観について調査研究を行った。この研究から、小学校・中学校・高等学校ともに歌唱表現が中心の音楽教育を受けてきたことや多くの学生が歌うことが好きであるという学生の実態を把握することができた。

シリーズ3回目となる今回は、「音楽表現Ⅰ」の授業で行っている小レポートの分析を通して、主体的な学びのための教育方法について論ずることが研究目的である。

#### II 調査対象と方法

##### ＜調査対象＞

2015年前期に「音楽表現Ⅰ」を受講した学生93名を調査対象とした。内訳は次の通りである。

H大学人間総合学部幼児児童教育学科

1年生	91名	
2年生	2名	計93名

##### ＜調査方法＞

小レポートを授業後に提出する。小レポートの内容は、「授業内容」「授業における学びについて」「事後学習について」「質問」（必要に応じて）の4項目を記述するものである。毎回担当者がコメントを書き、次回授業の開始時に返却する（学生と科目担当者のキャッチボールのような）方法で行った。また、全員に伝えた方がよいと思われる「授業における学びについて」や「質問」の内容については次回授業の開始時に共有するという方法で行った。

##### ＜調査期間＞

2015年4月～7月

#### III 調査結果と分析

授業回数は前期15回であるが、履修登録が完了

\* TABOTA, Harue

北陸学院大学 人間総合学部 幼児児童教育学科  
音楽科、器楽Ⅰ・Ⅱ、音楽表現Ⅰ・Ⅱ

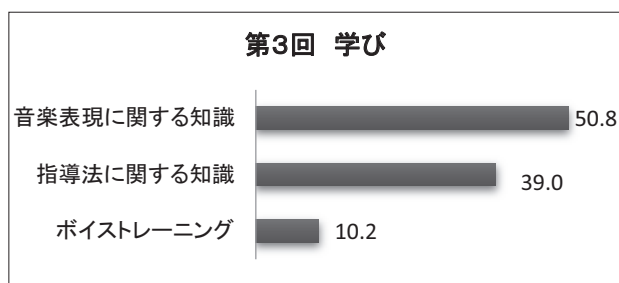
した第3回目の授業から小レポートの提出を課した。<sup>6)</sup>

「授業における学びについて」は自由筆記であったが、音楽表現に関する知識、指導法に関する知識、ボイストレーニングの3つのカテゴリーに分けグラフを作成した。第4回以降は、事後学習効果の有無も記載されたのでカテゴリーに加えた。

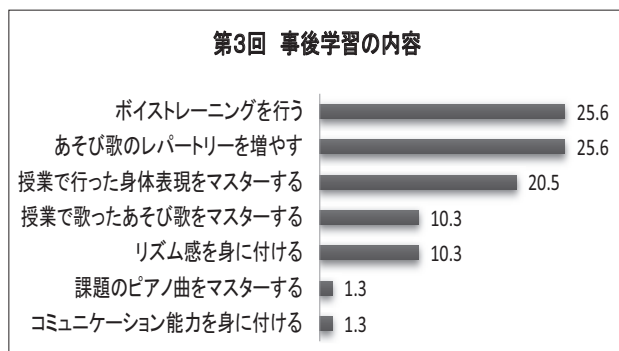
「事後学習について」は、記載内容の多い順にグラフを作成した。

各回の「授業内容」と「授業における学びについて」「事後学習について」の分析結果は次の通りとなった。

回	授業内容
第3回	「表現」って何だろう？Ⅱ： 総合的な視点で表現を捉える意義について理解を深める。  音楽コミュニケーションⅡ： 「まねること・歌うこと」について実践を通して考える。  読譜のトレーニングⅢ： 楽譜の読み方について習得する。



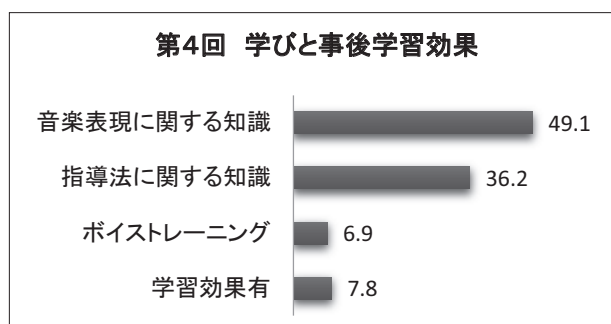
ボイストレーニングは継続的なトレーニングが必要なので、授業時間に毎回取り入れている。



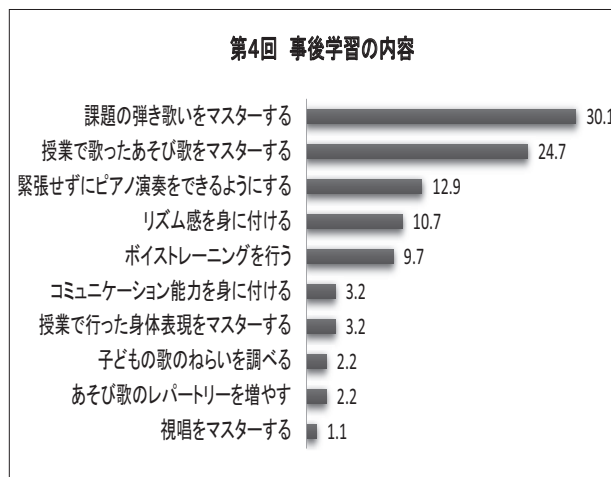
事後学習の内容設定は、授業の中で関心を持った事柄の探究と自らが不足していると感じた能力

の強化に焦点を当てているように思われる。

回	授業内容
第4回	「表現」って何だろう？Ⅲ： 保育における領域「表現」について理解を深める。  音楽コミュニケーションⅢ： 「一緒に動くこと・歌うこと」について実践を通して考える。  読譜のトレーニングⅣ： 楽譜の読み方について習得する。

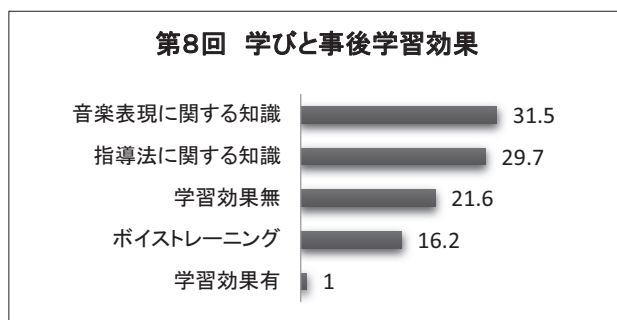


「ボイストレーニングの効果があり、声が出やすくなった」など、事後学習効果に触れる小レポートも見られた。

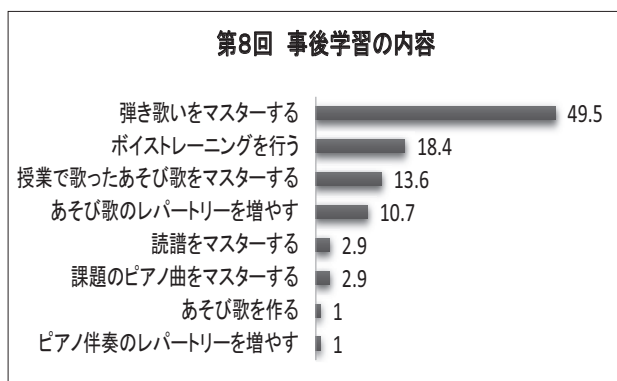


第8回の授業時間に「ゲーチャキパーでなにつくろう」（詞：斎藤二三子 曲フランス民謡）を弾き歌いするという課題を課したために、約30パーセントの学生が事後学習内容とした。また、第4回から新しいあそび歌を多く用いた授業を行ったことが要因して、「授業で歌ったあそび歌をマスターする」が2番目に多かった。

回	授業内容
第8回	歌うことを中心とした表現活動Ⅳ： あそび歌を通して、歌唱表現について考える。



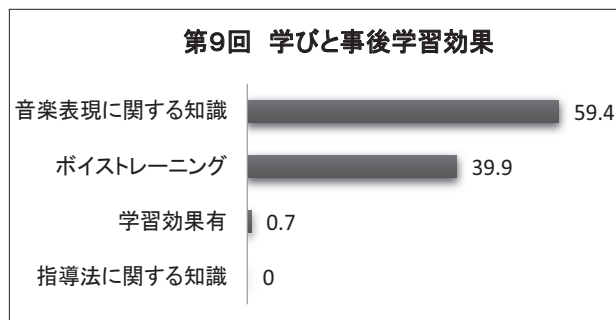
「グーチョキパーでなにつくろう」の弾き歌いの課題発表に対して、学生の約22パーセントが「学習効果が出なかった」と捉えている。



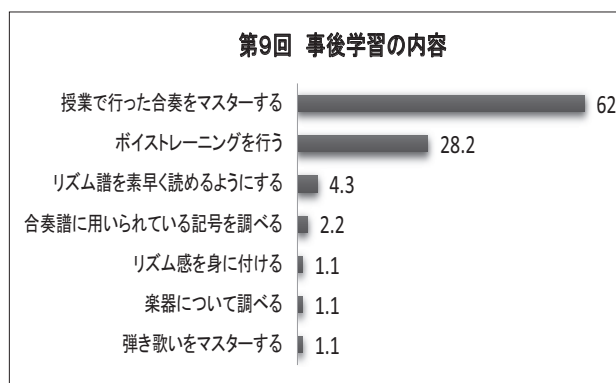
「グーチョキパーでなにつくろう」の弾き歌いという実技の経験を実際に行うことにより、履修者の半数が事後学習内容に「弾き歌いをマスターする」と回答している。また、「弾き歌い」の歌声に対しても納得がいかなかったのか、18パーセントの学生が「ボイストレーニングを行う」ことを事後学習の内容としていた。

他の学生の弾き歌いの様子を可視化することができることにも一因があるように思われた。

回	授業内容
第9回	楽器を用いた表現活動Ⅰ： バンブードラムやリズム楽器を用いた合奏を通して、打楽器の特徴と奏法について考える。

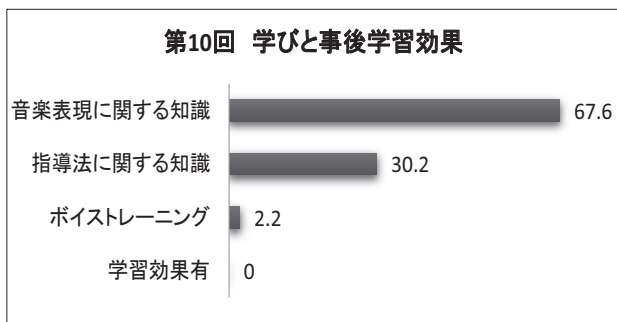


様々な発声スタイル（民謡・ゴスペル・クラシック混声四部合唱曲）のDVDの鑑賞後、楽器を用いた表現活動に授業内容が移行した。バンブードラムの演奏法やリズム楽器の演奏法のレクチャーの後、「ラデツキー行進曲」（作曲：ヨハンシュトラウス 編曲：多保田治江）の合奏に取り組んだ。今回の授業は、学生を対象としたプログラムであったため、指導法に関する知識への回答は無かった。様々な発声スタイルのDVDの鑑賞から、学生の約40パーセントが「学び」があったと記載している。



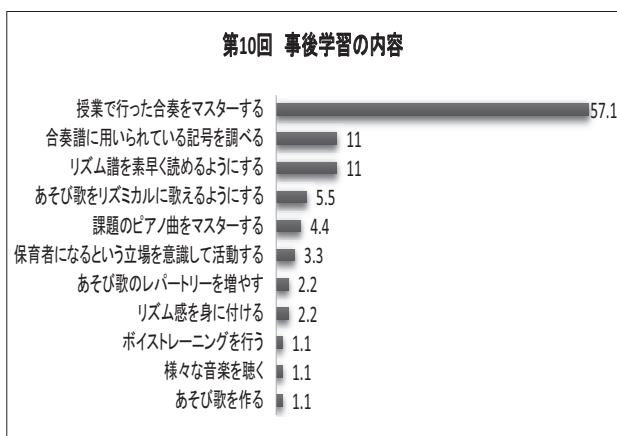
学生の約62パーセント(今回の調査の中で最多)が「授業で行った合奏をマスターする」ことを事後学習の内容としていた。次いで、DVDの鑑賞に興味注がれ「ボイストレーニングを行う」が多かった。

回	授業内容
第10回	楽器を用いた表現活動Ⅱ： バンブードラムやリズム楽器を用いた合奏を通して、子どもと楽器について考える。



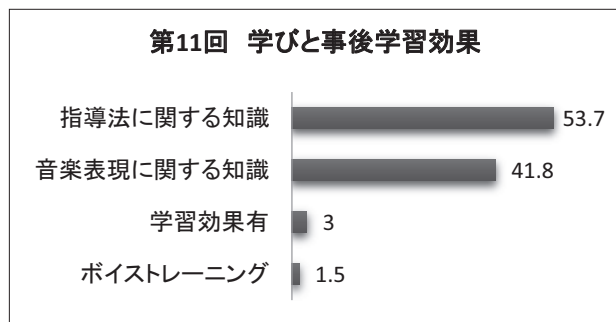
演奏グループ（1グループ）と演奏を聴くグループ（2グループ）となるようにグループ分けをして授業を開始した。

「ラデツキー行進曲」の合奏を通して、「音楽を聴き合うことの大切さを学んだ」「音楽にふさわしいスティックの打ち方を学んだ」など、学生の約68パーセント（今回の調査の中で最多）が「学び」があったと指摘している。第9回の事後学習の内容として設定した「授業で行った合奏をマスターする」についての学習効果について触れる記載はなかった。（記載のみで実際には事後学習が成されたようには見受けられなかった。）



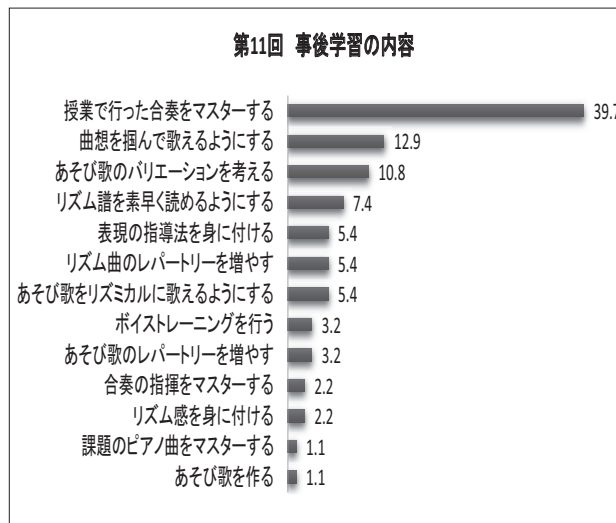
今回も学生の約57パーセントが「授業で行った合奏をマスターする」ことを事後学習の内容としていた。

回	授業内容
第11回	子どもの発達と音楽表現Ⅰ： 乳幼児の発達の特性（0歳児・1歳児・2歳児）について理解を深める。  さあ はじめよう！： 音楽と身体の動きについて実践を通して考える。



「ラデツキー行進曲」の合奏を通して、「だんだん曲らしくなってきた」「展開部が柔らかな音色となった」など、学生の約42パーセントが「学び」があったと指摘している。「もう一度演奏したい」という学生からの要望もあり、第12回目目の授業においてももう一度演奏ができるように対応した。

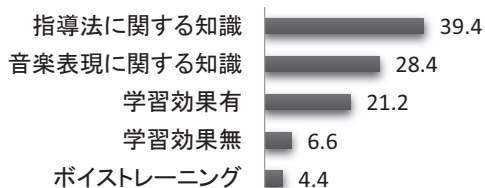
各グループの合奏発表後、子どもの発達についてテキストを用いて理解を深めることや音楽と身体の動きに第11回目目の授業内容は移行する。授業内容が反映して、「指導法に関する知識」に対して学生の約54パーセントが「学び」があったと指摘している。



学生の約40パーセントが「授業で行った合奏をマスターする」ことを事後学習の内容としていた。

回	授業内容
第12回	子どもの発達と音楽表現Ⅱ： 乳幼児の発達の特性（3歳児・4歳児・5歳児）について理解を深める。  移動する動き： 音楽と身体の動きについて実践を通して考える。

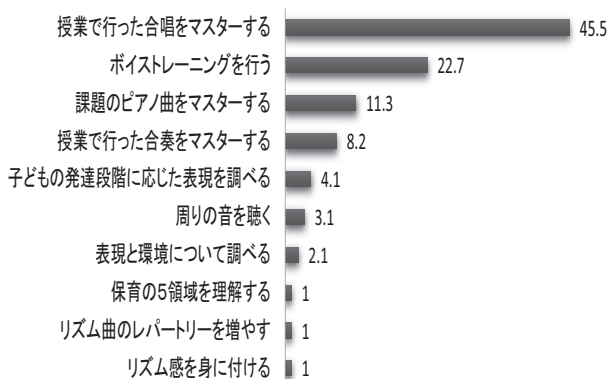
### 第12回 学びと事後学習効果



今回が「ラデツキー行進曲」の合奏のラストということもあり、「継続して練習した結果、演奏できるようになった」「音楽を聴く重要性が分かった」など、学習効果に対するコメントが多く記載されていた。

授業内容が反映して、「指導法に関する知識」に対して学生の約40パーセントが「学び」があったと指摘している。

### 第12回 事後学習の内容



今回から、大学の創立130周年記念式典で合唱するヘンデル作曲「ハレルヤ コーラス」の練習も加わったので、学生の46パーセントが「授業で行った合唱をマスターする」ことを事後学習の内容としていた。

回	授業内容
第15回	音楽と身体表現Ⅱ： 課題発表（課題の発表を通して、様々な身体表現について考える。）  ハレルヤ コーラス

最終授業の第15回の小レポートでは、「小レポートを書くことによって、授業を受ける姿勢が

変化したかどうか？」についてコメントを求めた。

- ・事後学習の内容が明確になり、持っている能力を高めようと心がけるようになった。33名
- ・授業をよく聴くようになった。27名
- ・積極的・主体的に授業を受けるようになった。22名
- ・授業の振り返りができるので、次の授業に活かすことができた。11名

など、小レポートが授業に効果的に働いたことが明らかになった。

## IV おわりに

大学生の学びについて、多くの出版物が発刊されている。<sup>7)</sup>各大学、各担当科目によってさまざまなケースが考えられる。今回は、「音楽表現Ⅰ」の授業にどのように学生が関わり、どのような行動を示したかについて、小レポートと授業における姿から論じた。

実技課題を課すと学生は与えられた課題の発表に集中する傾向を示した。しかし、他の学生の発表の姿から、事前学習課題・事後学習課題が明確になったことが小レポートを通して伺えた。つまり、事前学習・事後学習は授業の中で可視化されることによって育まれていく。学生と授業内容を共有し、振り返ることが主体的学びの一步であると考えられる。

〈注・引用文献・参考文献〉

- 1) 内閣府、文部科学省、厚生労働省では、平成26年（2014年）4月30日に『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（告示）』を公示した。
- 2) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008年、158-159頁
- 3) 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、2008年、96-97頁
- 4) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2015年、214-216頁
- 5) 多保田治江『保育者養成校における表現教育の取り

組み(2)』北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要 第3号、2010年、37-46頁

- 6) 授業の第5回～第7回は非常勤講師が担当のため、小レポートは課していない。第13回と第14回は第12回と同じ傾向であったため今回は省略した。
- 7) 木野茂『大学授業改善の手引き—双方向型授業への誘い』ナカニシヤ出版、2005年  
溝上慎一『大学生の学び・入門』有斐閣、2006年  
小田隆治・杉原真晃編著『学生主体型授業の冒険—自ら学び、考える大学生を育む』ナカニシヤ出版、2010年など